



からしだねの由来 マタイ 13章 31節、マルコ 4章 30節、ルカ 13章 18節

ホームページアドレス <http://mizumaki-church.sakura.ne.jp>

発行・カトリック水巻教会
編集・広報委員会
遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3
〒807-0025
TEL 093(201)0680 FAX(201)7354
第425号

萩への巡礼を前にして 予備知識②

フランススコ・アシジ 谷口尚志

いよいよ巡礼旅行に出発する日が近づいてきました。限られた時間のなか、各自が巡礼を行う意味を意識することは大切なことですので、前回に引き続き、巡礼地に関する予備知識に触れたいと思います。

②、浦上四番崩れについて

前回でも少し触れましたが、萩は明治政府が行った浦上の信徒に対する迫害において流刑地の一つとなった場所です。そもそも、なぜそのような迫害が起きたのかというと、当然、1865年3月17日、大浦天主堂での信徒発見という出来事が深く関わっていると考えられます。なぜなら、この信徒発見という出来事は、信徒がいまだに多く存在しているという事実を発見したばかりの明治政府にあらためて突きつけ、列強に遅れをとらないように国民が一丸となって進むべきと躍起になっていた当時において厄介な出来事に他ならなかったはずですから。江戸幕府の体制を否定しながらも、キリスト教信仰を認めないなかで築き上げてきた“これまでと今”が揺るぎかねないと大いに恐れたのだと思います（結局、浦上の信徒への迫害が世界中に知られたことによって不信感と反感を買われ、外交上の窮地に立たされた政府は、後に列強各国と対等の立場に立つためにも信仰の自由を認めざるを得なくなります。実は、浦上における信徒への取り締まりは既に1790年、1842年、1856年の三度にわたって起こっていました）。

さて、四度目となる浦上の信徒への迫害（「浦上四番崩れ」）についておおまかに触れます。1868年（明治元年）、浦上の全体が信徒であることに衝撃を受けた政府は、まず信徒の中からおもだった114名の信徒を全国各地へ流刑することにしました（二度にわたります）。第一次の流刑先は萩（66名）、津和野（28名）、福山（20名）で、萩に流刑された信徒は長崎から下関までを船、下関から萩までを陸路で向かい、萩に着くと沖合にある大島に隔離され、後に萩城下堀内にある清水屋敷に収容されまし

大人の日曜学校	2面
旅の話(18)	3面
教会学校	4・5面
納骨堂管理の部・総会	5面
幼稚園から	6面
委員会等報告	7・8面
お知らせ	8面

た。さらに、政府は1870年(明治三年)、浦上地区の信徒約3000人を富山県以西の二十一藩(当時はまだ藩制が維持されていた)に流刑するというも行いました。この第二次の流刑では萩に226名が流されたということです(男性が92名、女性と子供が134名)。萩に送られる前の4ヶ月を福岡で過ごした彼らは多くの苦難を味わったと伝えられており、萩に着いた際には第一次の流刑によって流刑された人たちと再会して大喜びしたということです。その場での上陸が許されなかったために実際は手を取りあって喜ぶことはできなかったようですが、彼らが再会した場所は鶴江台(鶴江の渡し)といい、1982年には「平和の十字架の塔」が建立されました(2010年には浦上の信徒らの手によって近くの藪から流刑者の遺骨が見つかったことを受け、「浦上四番崩れ流刑者葬地跡」も建立されています)。彼らは清水屋敷の向かい側にあった岩国屋敷に收容されることになり、そこで改宗を要求され、改宗しなかった人には二十日間もの間、食事を与えられないということも行われ、また、寒ざらし、さらには鉄砲責め(溶かした鉛を用いた拷問)なども行われたと伝わっています。全員が解放されたのは、キリスト教禁制の高札が撤去された翌年の1873年(明治六年)で、『萩市史』第三巻には次のように書かれています。「明治五年、改心者帰郷162名。明治六年、不改心者帰郷102名。死亡者数33名。」

残念ながら今回の巡礼旅行では「平和の十字架の塔」と「浦上四番崩れ流刑者葬地跡」は訪れることはできませんが、萩で亡くなった浦上の信徒たちの遺骨収集のために奔走していたパリ外国宣教会のビリヨン神父のはたらきによって建立された岩国屋敷の一角に位置する場所を訪ねることになります(現在、「萩キリシタン殉教者記念公園」)。浦上の信徒たちが体験した歴史を見つめながら、彼らに倣い、いわば無関心による迫害の時代に生きるわたしたちも後代に信仰を伝えていく決意を新たにすることができますように。



「大人の日曜学校」

8月13日ミサ後、コロナ禍以降久しぶりに「大人の日曜学校」が行われました。平和旬間の間に「平和というものをもう一度考え直そう」という教区の呼び掛けを受けたもので、谷口神父様が講師となって行われました。参加者は35人。

マタイ5・1の「平和を実現する人々は幸い」ということばを教皇様は「兄弟の皆さん」と題する回勅によって信徒に示されました。神父様は一部具体例を引きながら解説して下さいました。

その中で「ゆるしと和解」について詳しく説明をして下さいました。

詳細は「大人の日曜学校」のプリントをご覧ください。

旅の話 (18)

岩本光弘

カトリック難民移住移動者委員会が開催した入管法改定の学習会や全国研修会の準備と一緒にした東京のカトリック中央協議会のスタッフと、お互いに時間が取れるようになったら長崎・天草の旅をしようと話していました。数年後、お互いに時間が出来たので話していた旅をすることになりました。計画を検討してみるとかなり時間が掛かることが分かりました。

長崎や五島や天草にあまり知識がない者が計画を立てたので、かなり無茶なものになりましたが、せっかく回るのなら全部行こうということになり、5日間ずつの2回に分けていくことにしました。旅には私の車で回ることにして、船は私が予約し宿は友人が予約することになりました。1回目は博多港の船着き場が集合場所でした。上五島の青方へ夜行の船で出発しました。まだ暗い青方港に着いて旅が始まりました。とりあえず一番近い教会に行ってみようと地図を頼りに行くと教会に電気が点いていたのでミサがあると思い入ると駐車場の車は出て行っていました。教会に入ると一人の人がいたのでミサは何時からですかと聞くと、もう終わりましたというのです。まだ7時前だったのです。この時、長崎教区の平日の朝ミサは6時からだと知りました。その後大村に泊まった時も水主町教会の6時のミサに何回か行きました。長崎の信者さんは6時のミサにたくさん来ているのには感心しました。

1回目の旅は船中泊で上五島の青方に着いて上五島に1泊しましたが、たくさんの教会を回りました。2日目の夕方に福江に渡り2泊しました。どこにもビジネスホテルがあるのでそこに泊まり夕方には近くの店でうまいものを食べました。4日目の夕方の船で長崎に渡り一泊して翌日帰りました。4日間の五島の旅では40以上の教会を回りましたが、友人は博多港からの船の中で買った五島の教会巡りのスタンプラリーの用紙にいっぱいスタンプを押して喜びました。帰ってから中央協議会で司教会議に来ていた高見大司教に見せたら驚いていたそうです。高見大司教にサインしてもらったそうです。

2回目は1年半後の春に行きました。福岡から天草、島原、長崎、出津、佐世保、黒島、平戸の教会を回る5日間の旅でした。この年は桜が咲くのが遅く、福岡から平戸までずっと桜が咲いていて島原の原城跡の桜は見事でした。

この旅は聖週間の終わりでしたので、長崎の中町教会で復活祭の夜のミサに与かりました。翌日は出津教会でご復活の主日のミサに与かり、良い思い出になりました。

どの教会でも感銘を受ける所ばかりで良い旅をしたと思っています。この二回の旅では各地で美味しい魚料理を食べることができました。魚の新鮮なものと値段の安さと、1回ごとに出る量の多さにびっくりしたのも思い出に残りました。

今年の春に東京の友人たちに五島へ連れて行って欲しいと頼まれています。私ももう一度行く気になったので、秋に行くように準備しています。今回は教会巡りを短くして、前回行かなかった博物館や城などの観光地にも行こうと思っています。



教会学校のページ



8月5日教会学校一同は新田原教会でデイキャンプを実施いたしました。当教会から22名(子ども10人)が参加しました。

暑い中早くから新田原教会の方々は準備して下さっており、スケジュールもスムーズに進行し、無事一日をともに過ごすことが出来ました。

初めに水巻・新田原両教会の歴史を学びました。水巻教会の子どもたちは今日に向けて準備をしており、勉強してきた水巻の歴史の発表をすることに成功しました。新田原教会の発表はシスターにいただきました。新田原教会の歴史は、水巻教会より長いこともあり、わからないこと知らないことを子ども達は思い思いに質問していました。

待ちに待ったバーベキューでは、新田原教会の方々のご厚意で食事の準備をして頂き、おいしい食事を子どもたちとともにいただきました。新田原の信者さんの方々が育てた桃やブドウ・ナシは特においしかったです。レクリエーションでは、水巻・新田原入り混じてバラバラにチーム分けをし、様々なゲームをみんなで楽しみました。最後に新田原教会のお御堂でともにお祈りをしました。

両教会の交流を深めることができた一日でした。また次の機会があれば、出会った子ども達とより仲を深めていけると感じます。

記: 上甲銀河



【水巻教会と新田原教会の子ども達と一緒に】



【水巻教会の説明をする子ども達】



【新田原教会の説明をするシスター】


 デイキャンプに参加して 樽角樹祈

8月5日教会学校から新田原教会へ行ってきました。新田原ではまず2つの教会の歴史の説明がありました。説明が終わった後、少ししてから食事をとりました。

丸い机に何人かに分かれてすわってお肉や焼きソバなどを食べました。食べ終えた後は2つのゲームをしました。1つ目はマス目をとびこえて逃げる鬼ごっこです。2つ目は一人だけお題を聞いていなくて、聞いたものの絵をかき、聞いていない人は、その絵を見てお題を当てるといいうゲームです。

ゲームをしているうちに新田原の人達とも仲良くなり、楽しく一日過ごせました。



【レクリエーションを楽しむ子ども達】



【楽しい昼食会】



【新田原教会 聖堂でお祈り】



納骨堂部管理の部・総会

7月30日ミサ後、4年ぶりの「納骨堂管理の部・総会」が開かれました。

参加者は45名。納骨堂管理の部の担当・大原愛子氏から納骨堂の利用状況が説明されました。奉安室数120室に対し購入数93室。その後お盆期間中の納骨堂解放について説明があり、引き続き議題に入りました。

この日議題に上がったのは(1)合葬について(2)永代供養の名称変更(3)規約の見直しの3点でした。



水巻聖母幼稚園 マリア子どもの家 9月のお知らせ

いつも皆様のお祈りとお支えいただき感謝申し上げます。

〈水巻聖母幼稚園〉

お部屋でろうそくをともして、お祈りをしている年長児がいました。ろうそくを見つめ、個体から液体へと、状態が変わることに興味を持った子どもに、神父様がろうそくを作ったことがあることを伝えると「ろうそくの作り方教えて!」と神父様にお話したそうで、先日年長児でろうそくを作りました。教会でミサの時に使っていた、大きなろうそくを溶かして、お分けしていただきました。子ども達が好きな色のクレパスを削った紙コップに、溶けたろうそくを注ぐと、透明だったろうそくに色が付き、その様子を不思議そうに見たり、色が変わったことを喜んでいました。これからもたくさんの経験をする中で、子ども達の成長が見られることを、楽しみにしています。



水巻聖母幼稚園 TEL : 093 201 9559
e-mail : ContactUs@mizumakiseibo.ed.jp

〈マリア子どもの家〉

暑くて園庭での外遊びが難しくなった頃の、7月13日から水遊びが始まりました。上から水を入れて水車を回したり、水鉄砲や金魚すくいなど。月齢の低い児は、タライの水を繰り返しバケツに移していました。又、ジョウロやバケツで、朝顔やフウセンカズラ等に水をやりたりなど。でも、冷房生活と今年の暑さの間で、体調を崩す子どもも多くいました。



マリア子どもの家は、建って6年目になり、庭や畑も6年目になります。今年は6月のビワの豊作に続いて、8月には庭のイチジクも初めての豊作でした。たくさんの緑の小さな実が、どんどん大きくなり、赤紫になるのを、毎朝子ども達と、驚いて見ました!

TEL : 050 5212 7759
HP : 水巻町マリア子どもの家
水巻聖母幼稚園・マリア子どもの家
園長 水口 由美
教職員 一同



委員会等報告

2023年8月分

8月度小教区委員会 8月6日

1. 行事予定

- ・9月 3日(日) 小教区委員会
- ・9月 10日(日) 教会学校
14時～北九州地区宣教司牧評議会
- ・9月 17日(日) ミサ中敬老の方への祝福
ミサ後～萩巡礼についての説明会
14時～地区聖書講座(小倉教会)
18時～ベトナム語ミサ
- ・9月 23日(土) 8時～巡礼に向けて出発
(7時半までに教会に集合)
- ・9月 24日(日) こころの会

2. 議題

(1) 各専門委員会および代表委員(営繕、納骨堂、冠婚葬祭)、北九州地区宣教司牧評議委員より

① 広報委員会

- ・委員長の交代について。委員会を開き推薦により上甲銀河氏に引き継ぐこととなった。
- ・萩への巡礼の小冊子を作製し、次回の小教区委員会を経て9月17日(日)の巡礼説明会の際に配布する(小冊子にはスケジュール、訪問先の地図および訪問先の説明などを載せる)。

② 総務委員会

- ・議題(2)、(5)を参照のこと。

③ 営繕の部

- ・車いすの手入れを定期的に行う(ふれあい会に依頼する)。

④ 納骨堂管理の部

- ・7月30日(日)に約4年ぶりに納骨堂

使用者総会を開催し、納骨堂使用状況、管理費の納入状況などの説明を行い、同時に、将来的に起こり得る課題(使用名義人との連絡が途絶える、合葬が実際的に不可能など)を前提にした規約の改訂を行うことを確認した。今後、使用者および規約の作成に携わった方に呼びかけて改訂委員会を立ち上げることにする。

⑤ 冠婚葬祭の部

- ・7月16日(日)の結婚式後に反省会を行い、スムーズな進行のため、役割の確認と備品を新調することなど(リボン、証人用の椅子、ブーケ置き等)を確認した。

⑥ 北九州地区宣教司牧評議会

- ・7月23日(日)に行われた地区評議会主催の聖書講座に10名が参加した。第2回目は9月17日(日)14時～小倉教会にて行われるので、引き続き、誘い合わせのうえ参加をお願いしたい(参加者は名簿に記入を)。

(2) 9月17日(日)の敬老のお祝いについて

- ・昨年と同様手紙を添えたクッキーをお渡しする(トラピスチヌ修道院にクッキーを106個注文する)。宛名書きは9月3日(日)に、仕分け作業は9月7日(木)に行う。

(3) 9月23日(土)の萩への巡礼に関して(参加者数が確定したことを受けて)

・巡礼への参加者総数は54名、弁当とお茶は萩教会の主任司祭(Fr.アレックス師)、ガイドをして下さる信徒2名分を加えた53個を準備する。なお、大型バス1台を既に手配済み(当日は司祭の車も同伴する)。

・9月17日(日)のミサ後に巡礼に関する説明会を開く(参加費の徴収、小冊子の配布、訪問先について、注意事項、車いす2台を持参することなどの確認)。

(4)「大人の日曜学校」の再開について (“北九州地区召命を祈る会”との連携も兼ねて)

・日本カトリック平和旬間の期間中にあたり、8月13日(日)のミサ後から「大人の日曜学校」を再開する。今後は司祭だけでなく、各委員会や各グループと連携しながら準備をしていきたい。第3日

曜日に固定して10月から行う。次回の小教区委員会で、連携するにあたって主旨とスケジュール案を確認したのち、各委員会や各グループへの説明を行うようにする。

(5) その他

・図書係より。聖堂2階の泣き部屋に乳幼児のための絵本を準備しているので活用して欲しい。また、現在、書籍の整理を続けているが、古い書籍であったり、重複したりしている図書が何冊もあるため、欲しい方に持ち帰っていただけるように「ふれあい会」の際に展示させて欲しい。

・小教区委員会は信徒の代表者の集いなので、専門委員長、部の各代表委員、各地区委員が出席できない場合は、欠席の連絡とともに代理者を出席させていただくようにしていただきたい。



★萩への巡礼旅行について★

日 時：9月23日(土) 8時出発
水巻教会集合：7時30分までに
帰省予定時刻：19時30分ごろ

※事前説明会

9月17日(日)ミサ後
巡礼旅行に行く方は、参加してください。

★特別献金★

8月15日 聖母の被昇天
19,358円
ご協力ありがとうございました。

★敬老のお祝い会★

今年度もミサ後の集まりはありません。ミサ中に敬老の方への祝福があります。昨年同様、対象の方に、トラピストのクッキーをお渡しします。

人-ひと

【帰天】安らかに！

7月24日
◇弓削 稔さん(中間地区)